# クラブ代表挨拶

**2025年をふりかえり……**

当クラブとして四半世紀の節目を終えた2025年2月、サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ設立25周年式典にて、今までお世話になった茅ヶ崎市長をはじめとする茅ケ崎市、神奈川県の行政の皆様、海上保安庁、茅ケ崎消防 など関係機関の皆様、また我々の活動をサポートして下さる多くの民間企業、団体、個人の皆様をお招きし、感謝の気持ちをお伝えする機会をいただけたことを、大変うれしく思います。

日本水難救済会様からは、救助用IRBをご寄贈いただきましたが、その後のタイミングで、民間ドローンと連携したIRBレスキュー活動がありました。それに端を発して救助用ドローン「manisonias社」様との出会いがあり、様々なケースを想定した実証実験を行う中で、ドローンによる発見から救助までの流れを確認しました。

7月30日には、茅ヶ崎市にロシア カムチャッカ半島地震に伴う津波警報が発令され、津波フラッグ掲示のため警報から解除まで海に詰め、人の侵入と潮位の変化の調査を行いました。また10月にはシーバードジャパン様より 救助用マリンジェット（PWC）の寄贈があり、進水式並びに安全祈願の式典が、茅ケ崎市長をはじめとするご来賓をお迎えして実施致しました。

長い年月の活動をする中で、設備全般の老朽化が進んでいます。2025年の活動を終了した10月末には、茅ヶ崎ベース（監視所）の雨漏りが限界に来たため、県庁の立会いのもと、監視所全体に屋根をかける・・という対応にご了解をいただき、茅ヶ崎の専門会社様に発注。その後雨漏りを完全に止めることが出来ました。

11月8日には茅ヶ崎市合同津波訓練が行われました。ビーチの一般利用者は、避難誘導に従い行動してくれましたが、釣り客や、海上の漁船やボートなどは避難行動起こしてはくれず、課題を残しました。周知方法の課題や、危機意識の欠如などが伺え、実際の災害が起こったときの市民の被害が懸念される状況でした。

2025年では、救助事案も多発しました。内容としては、PWCやIRBといった救助用船舶を必要とする事案が多かったように感じます。重点期間中も、ほぼ毎日熱中症警戒アラートが出ていた年でしたが、新しい若いメンバーも増えて、パトロール活動・数多くのイベント警護の活動も無事に終えることができました。2026年も常日頃支えてくださる支援者や、茅ヶ崎の海に訪れるすべての人のために、クラブメンバー全員で創意工夫をしながら活動を継続し、また大切な仲間達が一緒に活動してくれることに感謝しつつ、前向きに活動を進めていきます。

サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ
代表 **小川 恵一郎**